



JAC Tochigi

発行元 日本山岳会栃木支部 発行元住所 〒321-1262 栃木県日光市平ヶ崎 176-4 渡邊雄二方

2025 年

5 月号

2025(令和 7)年 5 月 17 日発行

栃木支部報

目次

p 1. -2. __支部報第 18 号の発行に当たって

p 3. -4. __総会・役員会等

p 5. -19. __各種山行・事業等

p 20. -29. __マスターズクラブ山行

p 30. -32. __ユース栃木山行

p 33. __追悼 故 山野井武夫前支部長

p 34. -35. __会員情報

p 36. __支部会員名簿、事務局より

18 号

支部報 18 号の発行に当たって

支部長 渡邊雄二

○私たちの日本山岳会は、1905（明治 38）年に設立された日本最初の山岳クラブです。山登りを中心にした、登山文化に関する愛好家の個人的集まりですが、社会貢献活動である公益事業も数多く行っているため現在は公益社団法人として活動しています。

○これまで何度もご紹介しましたが、日本山岳会は本年に創立 120 周年を迎えました。この良き年を祈念して各種の記念プロジェクトが実施されています。12 月 6 日には記念式典を開催し、記念講演や海外の山岳団体との交流も予定しています。

○私が担当しているエクアドル山岳連盟との交流に関しても、会としての登山活動の交流は終了していますが文化交流は継続中なので、現地の代表者や在日エクアドル大使とも連絡を取り合って記念式典への招聘を検討しているところです。会員諸氏から寄付をいただいております、大変感謝申し上げます。

○記念式典での特別記念講演は、1999 年出版の『そして謎は残った-伝説の登山家マロリー発見記-』の著者ヨッヘン・ヘムレブ氏を招聘することになっています。1924 年イギリスのエベレスト登山隊として頂上に向かって行方不明になったジョージ・マロリーの遺体を発見した 1999 年のアメリカ捜索隊の全容についての話を聞くことができることを楽しみにしています。本の表題のように、マロリーとアービンソンは果たしてエベレストに登頂したのでしょうか、「そして謎は残った」のです。改めてこの本を読み直しています。



○2007 年 5 月に設立した栃木支部は 18 年目を迎えました。そろそろ 20 周年の記念すべき年を迎えることになるので、会員の記憶と記録に残る、そして会の活動の励みになるような記念事業の企画を検討する時期に来ているので、会員の皆様のお知恵拝借と行動力に期待しています。是非、ご意見をお寄せください。

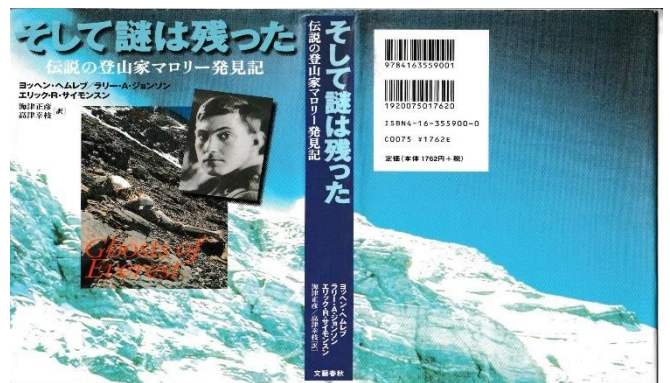
○本年度は、本支部の活動はコロナ禍前の状況に戻ったと言えます。四季の支部山行、マスターズ山行、ユース山行もそれなりにクラブライフを楽しむことができました。山行の内容は、それぞれの年代にふさわしいものであったと言えますが、毎年一つずつ平均年齢が上がっていくことには逆らえないことも事実です。栃木支部の運営の理念は、自立した登山者が各自の力量に応じてクラブライフを楽しむ、ということが基本になっているので個人山行等も是非活発に行って楽しんでもらいたいと思います。

○公益事業では、特に「山の講演会」では本支部の広報活動の弱さを感じました。参加者は 100 名近く大変盛況に行うことができましたが、これは偏に講師の日常の活動によるもので、本支部の広報によるものではなかったことは明白です。今後は SNS など有効に活用し、社会の状況を鑑みて登山文化の普及に努力しなければならないと痛感しているところです。

○遭難事故が報道されるたびに感じるのですが、登山が「社会悪」であるようなメディアによる報道姿勢が、その時だけ際立っているのが目につきます。登山は自然の中で楽しめる大変健康的で有意義な生涯スポーツなのは言うまでもありません。このことが薄れてしまい、社会的なマイナス要因だけが誇張されて「社会悪」の扱いになっています。そのような風潮を改め、プラス思考で登山の素晴らしさを前提としたうえで遭難事故に遭わないための、前向きで教育的な報道が望まれます。ダメだ、ダメだの論調はかえって事故を増加させる方向に走ります。登山は素晴らしいスポーツ、野外活動であるとの思想を醸成させること、そのことによって国民一人ひとりが真の意味で生きる力を育むことが、災害列島に住む日本人には不可欠と考えています。このような観点から、私たち研究グループでは、全国の山岳遭難事故状況の分析を試みています。その一例を紹介しますと、最近の傾向として、「道迷い」の遭難は若年層(20～30 歳台)において減少傾向にあること、これはスマホの位置情報 GPS アプリの利用が普及していると推察されます、「転倒」の増加が顕著であり、その年代は中年(40～50 台)に広がりつつあり、高齢者(60 歳以上)については病気によるものが増えている傾向があります。

中高齢者が安全に楽しく登山を楽しめるような啓蒙が社会全体に必要と考えます。このような分析結果については後日公表予定です。手前味噌ですが本支部が行っている公益事業(親子登山教室、山の講演会等々)は微力ながらも遭難事故抑止、登山の素晴らしさを伝える事業として、啓蒙活動の一助となっていると自負しています。

○令和 6 年度(2024 年度)は、支部通信を 5 回発行しました。内容は、支部の事業報告と事業案内が主なものです。各号編集にあたって、ほとんどパソコンに向かった時の思い付きが題材となっており恐縮ですが、私の折々の雑感のような駄文を書いています。それぞれのキーワードは、オンライン・リモート活動の功罪、「天の川が良く見える夜空の環境を保持している」施設、カラコルムでの友人の事故が続いたことと「低山」での事故の増加、秋の南会津の山開き、ダム建設による自然や地域社会の変貌、「ナンダ・ディヴ縦走」に関するヒトとモノ講座、大学山岳部の創部 100 年について等、読み返してみると我ながら拙い文章を記載してしまい大変恐縮しています。引き続き、支部通信の一部にお邪魔したいと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。



日本山岳会創立 120 周年記念講演予定者の書籍

2024(令和 6)年度活動報告

◆◆◆総会・役員会等◆◆◆

2024 年度通常総会

日 時：2024 年 5 月 11 日(土)14:00~15:15
場 所：宇都宮市『コンセーレ』第 1 会議室
参加者：渡邊支部長以下 17 名

- 仙石委員の進行により総会に入り、増淵委員が開会を宣言。渡邊支部長より令和 5 年度の総括と今後の活動に関して挨拶があった。来賓祝辞は来賓欠席のため割愛。
- 議長選出：事務局より議長選出提案があり、麦倉委員が議長に就く。
- 猿山会員より第 1 号議案「令和 5 年度事業報告」、第 2 号議案「同決算報告及び監査報告」については石澤副支部長より決算報告、桑野監事より監査報告があり承認される。
- 第 3 号議案「令和 6 年度事業計画」は猿山委員より提案があり、承認される。
- 第 4 号議案「令和 6 年度予算案」については石澤会員より提案され承認される。
- 第 5 号議案「令和 6 年度支部役員案」が事務局より提案され承認される。なお、役員の任期は、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日である。
- 第 6 号議案 その他 (1)支部報 17 号の発行について、神島委員が欠席のため、事務局より報告と説明があった。(2)支部HPの運営状況について、菱田委員より説明(ユーザー名:JACtochigi、パスワード)があった。(3)支部通信等の送付方法は、会員の意向により郵送とインターネットで行っているが、10 月からの郵送料値上げは支部会計に大きな負担になるので、ネットへの変更を呼びかけたい。
- 支部長から支部連絡会議の内容・本部情報の報告があった。
- 桑野監事により閉会が告げられた。
- 引き続き、スライドを交えて活動報告(マスターズ・ユース・支部山行・個人山行)を行う。
- その後、会場を変えて懇親会を開催し、会員同士の情報交換や近況報告などを行った。

第 1 回役員会

日 時：2024 年 4 月 21 日(日)17:00~18:00
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 春山山行から帰って役員会を開催。支部総会の議題等について協議した。

第 2 回役員会

日 時：2024 年 5 月 11 日(土)13:00~13:50
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 総会の前に 13:00 から開催。総会への対応、役員の業務分担、親子登山教室、夏山山行等の今後の行事予定について協議。
- 総会の持ち方の再確認をするとともに、スムーズに議事進行が行えるように役割分担を行った。また支部通信等の受信に関するアンケート結果、親子登山教室等の今後の行事を検討。

第 3 回役員会

日 時：2024 年 7 月 1 日(月)18:00~19:30
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 全国支部懇談会、マスターズ山行、JAC総会等の報告があった。また 6 月 4 日に逝去された山野井武夫顧問の通夜・葬儀に、支部から生花をお供えしたこと、参列したことが報告された。
- 日光清掃登山、親子登山教室、夏山山行、那須クリーンキャンペーン、秋山山行、マスターズ山行等について協議した。
- 会津中街道交流実行委員会主催の大峠ニコウキスゲ調査と流石山登山の案内、関東 4 支部懇談会の案内があった。

第 4 回役員会

日 時：2024 年 9 月 7 日(土)17:00~18:30
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 前回の役員会以降の支部事業の報告があった。海外登山の集い、山の講演会についても、講師や日時等について検討した。

第5回役員会

日 時：2024年12月1日(土)17:00~18:30
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 秋山山行、4支部合同懇談会、日光国立公園指定90周年記念フォーラム、マスターズ山行等の報告があった。年次晚餐会出席者の確認、足利山林火災予防シンポジウム参加の報告もあった。
- 冬山山行・新年会、海外登山の集い、山の講演会等について協議した。
- お世話になっている『コンセーレ』で実施される新春賀詞交歓会の案内もあった。

第6回役員会

日 時：2025年1月19日(日)17:00~18:00
場 所：那須塩原市『明賀屋本館』

- 翌日の日留賀岳登山の打合せを行う。ヒマラヤの集い、海外登山の集い、山の講演会について協議する。

第7回役員会

日 時：2025年2月22日(土)12:30~13:20
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 「ヒマラヤの集い」の前に役割分担を行う。更に年度内の事業予定、令和7年度計画等について検討した。

第8回役員会

日 時：2025年3月2日(日)17:00~18:30
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 山の講演会、マスターズ山行、ユース春山山行等について協議。あわせて令和7年度事業計画等について検討した。

第9回役員会

日 時：2025年3月23日(日)12:30~13:30
場 所：宇都宮市『コンセーレ』

- 山の講演会開催前に役割分担をする。
- 令和7年度の事業計画を協議する。特に近々に迫っている春山山行、支部通常総会等の内容を検討した。

なつかしの写真です！！

(支部報第1号より)

栃木支部設立記念山行・日光白根山
【2007(平成19)年8月19日(日)】



ゴンドラ山頂駅で挨拶をする故 日下田氏(元支部長)



白根山頂直下にて記念撮影



ゴンドラ山頂駅で白根山をバックに記念

◇◇◇各種山行・事業等◇◇◇

春山山行

期日：2024年4月21日(日)

場所：日光市足尾 中倉山(1520m)

参加者：渡邊、牛窪、仙石、高野、長、菱田、桑野、仲畠、猿山、鬼頭、大島、林

ゲスト：神長善次、神長純江、新本政子、鈴木清一、福田隆、林明子 合計 18 名

行動概要：JR 日光駅 7:00＝清滝 P＝銅親水公園 8:10…中倉山登山口 9:06～26…中倉山 11:11～12:15…孤高のブナ 12:30…中倉山登山口 13:35～55…銅親水公園 14:45、解散

○今回の計画は「孤高のブナ」で有名な中倉山。計画が実施一ヶ月を切っていたにもかかわらず、ゲストを含め18名ものご参加をいただいた。また今回のトピック、「山頂で豚汁会！」のお楽しみ企画もあり、和気あいあいとした賑やかな山行となった。

○当日はJR日光駅前に7:00集合。清滝の駐車場に移動し、ここから乗り合わせて銅親水公園へ向かった。雨予報もあり天候が心配されるが、何とか一日持ってほしい。銅親水公園駐車場で渡邊支部長のあいさつの後、各自無理せず、自分のペースで行動することを申し合わせて出発。

○最初は林道歩きで、会話しながら思い思いに歩く。しかし、楽なはずの林道歩きがひたすら長く感じるのは何故だろう。中倉山登山口で休憩ののち、いよいよ登山道に入る。地形図を見ると、山頂稜線まで等高線が密集しており、かなりの急勾配であることが分かる。勾配に加え、素の斜面のまま、ステップ状でないためとても歩きにくい。30分ほどで小休止を取る。近くにスイセンが群生して咲いており、一同の興味を引いた。再出発し程なくして尾根に上がる。後続を待ちつつ小休止。山頂稜線の少し下で「孤高のブナ」へのトラバース道分岐に出る。ここから豚汁班が先行。山頂稜線に出ると一気に展望が開け、気持ちの良い稜線歩きとなる。松木溪谷側の景観がすばらしい。

○程なく山頂に到着する。すぐに豚汁の調理を始め、ちょうど出来上がったころ後続組が到着。間もなく全員が到着し、お楽しみ豚汁に舌づつみを打つ。雨予報の曇天だが、ガスも風もなく、ちょうど良い気温でとても心地よい豚汁会となった。1時間ほどのんびりと山頂で過ごしたのち下山開始。

○孤高のブナに立ち寄り記念撮影をする。孤高のブナは文字通り1本だけ稜線上にあり、その佇まいは尊厳的ですからある。下山は休憩をはさみ

ながらも1時間ほどで林道の登山口に到着。急傾斜の下山はとても辛く足に来るが、ここまで来れば後はのんびり林道を下るだけ。銅親水公園に14:45に帰着。後続組もさほど遅れることなく、15:00に全員無事下山した。今回の山行は18名の在所帯なので行動面の心配も若干あったが、無理することなく各自それぞれのペースを守っていただいたお陰で結果的に大きな差もなく、当然トラブルもなく無事山行を終えることができた。ご参加の皆様、大変ありがとうございました。



出発時の全員集合！



中倉山山頂付近から快適な稜線



「孤高のブナ」にて

高原山山開き 2024

日 時：2024 年 5 月 26 日(日)

場 所：高原山釈迦ヶ岳

参加者：会員数名参加

- 本支部主催や後援事業ではないが参加。主催は「高原山を愛する会」。山頂において 11:30 より「高原山頂サミット」が開催され、塩谷町の見形町長(同会の会長)、矢板市の森島市長、日光市の粉川市長、那須塩原市の渡辺市長らの挨拶後、全国山の日協議会の梶理事長が「高原山宣言」を読み上げ、シーズン幕開けの祝いと山の安全を願った。

全国支部懇談会(主管:神奈川支部)

期日:2024 年 5 月 25 日(土)~26 日(日)

場所:グランドホテル神奈中 平塚(宿泊)

日程:25 日(土)第 1 回岡野金次郎碑前祭、懇親会

26 日(日)A コース:三浦アルプス B コース:鎌倉大仏

参加者:A コース:渡邊、高野、菱田、大島 B コース:長
行動概要

○5/25(土) ホテル受付 12:30、バス出発 13:00=湘
南平碑前祭 13:30~15:00=懇親会 18:30~

○5/26(日)

A コース:JR 逗子駅=風見橋 9:05...仙元山 9:20~30...
観音塚 10:25~35...送電線鉄塔 12:15~40...乳頭
山 13:00~15...田浦緑地 13:45~14:00...JR 田浦
駅 14:30、解散

B コース:江ノ電長谷駅 9:25...鎌倉大仏...源氏山
11:00...JR 鎌倉駅 13:15、解散

【第 1 日:5 月 25 日(土)】

☆岡野金次郎碑前祭

- 湘南平は標高約 180m で千畳敷と言われるぐらい広く 360 度展望がある。この日は曇っていて富士山は見えなかったが、丹沢山塊から相模湾までよく見えた。
- 碑前祭まで 1 時間 30 分あったので、高麗山(こまやま)まで高野・菱田・大島で行ってみることにした。このコースは高麗山県民の森になっていて、よく整備され地元の人が散歩しているのに出会った。一等三角点になっている浅間山(せんげんやま)を過ぎ堀切を横切ると高麗山城跡がある山頂である。
- 第 1 回岡野金次郎碑前祭は岡野金次郎、小島烏水両氏のご子孫を迎えて式典が行われた。込田神奈川支部長の挨拶に始まり平塚市長、橋本日本山岳会会長、両名から祝辞をいただく。功績紹介を神奈川支部の砂田氏がおこない、ご子孫の岡野眞氏と小島烏水氏ご子孫の相良嘉洋氏の

話がある。続いて会員である高橋あかね氏によるフルート演奏が湘南平に響き渡った。最後に本部の坂井氏による結びの言葉で閉会となる。



☆懇親会

- 全国 150 名の会員が一堂に会してのイベントはそうあるものではない。この支部懇談会が全国の方々と情報交換や知り合いになる貴重な場であることを再確認した。



【第 2 日:5 月 26 日(日)】

☆A コース

- 風早橋バス停で降り少し行くと左に登山口がある。階段を上り照葉樹林の中を歩くと開けてきた所が仙元山(118m)である。眼下に葉山町が、そして江の島を右手に相模湾がよく見えた。残念ながら雲が多く富士山の雄姿は望めない。ここには西南戦争と日露戦争の招魂碑があり 10 柱が合祀されていた。
- 今回の三浦アルプスは南尾根コースを歩いたが、随所にターゲットコードNo.があり道標がしっかり設置してあった。
- コース足元には庭によく植えられているアオキやヤツデが終始見られた。200 段の急な階段があり上りきった所には大きなタブノキがあった。この尾根にはこの木が多く見られ、赤い新葉が太陽の光に当たり暗い木々の中で何とも言えない



美しさを醸し出していた。皆も立ち止まり感動に浸っていた。

○展望はないが観音塚(167m)は馬頭観音・千手観音が仲良く並んで、碑の横には寛政 11 年(1799 年)6 月とあり、この道が古くから利用され歴史のある場所であることを物語っている。またこの辺りのタブノキには大発生しているタイワンリスの食痕がいくつも見られ痛々しいほどであった。

○「どんぐりの並木」と言われるマテバシイの純林を通り、いくつもある分岐を過ぎ、またかと思われるアップダウンが続いたのち、送電線の鉄塔下で昼食にした。

○今回の山行は 54 名が 6 つのグループに分かれ、栃木支部の 4 人は最終グループで出発した。鉄塔下では先に着いた人がのんびり食事をしながら歓談していた。私たちは長会員から頂いた日本酒の「門外不出」のその味をゆっくり堪能することができた。周りにはスイカズラの花が咲いていてほんのりと甘い香りが漂い、より一層美酒の味を引き立たせていた。

○頂上が狭い乳頭山(202m)では横須賀や横浜が少し望めた。ここからは下りになり「横浜横須賀道路」に架かる田浦橋を渡り、田浦緑地の芝生広場でゆっくり寝そべりながら休憩。田浦梅の里(2月～3月初めには 2700 本以上の花が見事だそう)を抜け JR 田浦駅に着き解散した。

○今回は三浦半島を西の葉山町から東の横須賀市田浦までおよそ 8.5km 横断したことになった。

☆B コース

○3 班 9 名 4 班 11 名で行動した。平塚駅から鎌倉駅で江ノ電に乗り換え長谷駅に 9:25 着。鎌倉大仏を見て、大仏切通のトンネル右横の大仏坂の急な階段を上り源氏山へ向かう。登ったり下ったりして車道へ出て源氏山に 11:00 着。昼食後、頼朝像の前で B コース全員で記念撮影。そして又 1,2 班が先に出発して、その後 3,4 班が出発。銭洗弁財天の方へ急な岩の坂を下り、海蔵寺の庭を見てイワウチワの花を愛でる。葉も花も日光東照宮近くのものより大きく、時期も日光より早く咲いている。横須賀線をくぐり、亀ヶ谷切通へ向かう。途中看板を見て戻り、頼朝の娘のお堂を見て元の横須賀線をくぐり、戻って左折して寿福寺に着いたが、寺には入れず。裏へ続くお墓の中に洞穴の北条政子の墓を見て江ノ電の方の鎌倉駅に着き 13:15 解散。私(長)の歩数は 17,000 歩だったが頑張って歩いた。

○神奈川支部の皆様にはお世話になりました。



日光清掃登山

(栃木県山岳・ツライミグ連盟との共催)

日 時：2024 年 7 月 7 日(日)

場 所：日光湯元ビジターセンター、太郎山

参加者：仙石(開会式のみ)、菱田、後藤、仲島、大島、
林、麦倉 【ゲスト】岩崎、杉浦

行動概要：湯元ビジターセンター開会式 7:30＝山王峠 8:30
…山王帽子山 9:30…小太郎山 11:00…太郎山頂
11:30～12:00…小太郎山 12:15…山王帽子山 13:30
…山王峠 14:25＝光徳 P15:00、解散

○梅雨を忘れたかのような、晴れ渡る青空の下、毎年恒例で、49 回を数える栃木県山岳スポーツクライミング連盟と、本年より日光那須山岳ガイド協会と本支部共催の日光清掃登山が行われた。本支部の清掃登山活動参加者は、会員 6 名、ゲスト 2 名。本支部会員でも他の所属山岳会の清掃登山活動に参加し、本支部と別行動をする会員もいた。

○開会式では岳連の自然保護委員の方により進められ、岳連の条川会長の挨拶に続き共催団体として、支部長代理の仙石委員より挨拶があった。

○開会式後、光徳駐車場に移動して身支度を調べ、そこから車の集約を行い山王峠に移動して行動開始となる。今回は 7 月下旬に予定されている本支部主催の親子登山教室の登山実習の下見を兼ねている。主に担当者やサポートする会員で、コースの確認を行いながら、親子登山教室で歩くルートを辿って行く。そこにゲストも参加して、清掃活動とともに楽しい登山行動をする。

○山王峠手前に車を停めて山王帽子山の登山口まで車道を歩く。天気も良く気持ちも軽やかに、登山道に入る。いきなりの急登になり、九十九折りの登り道に、汗を噴き出させながら先ずは山王帽子山頂を目指す。日差しは強く、山の上といえども暑さが気になる陽気である。登り初めて一時間ほどで山王帽子山山頂に到着。樹林の間に見える富士山を楽しむ。

○山頂から一旦下り、小太郎山までの登りにかかる。思いのほか下ったことで、登りがきつく感じられる。それでも一定のペースで登りをこなして、小太郎山にたどり着き、そこで梅雨の時期とは思えない眺望を楽しむことができた。足下には戦場ヶ原や、中禅寺湖、切込湖、近くには男体ファミリーの男体山、女峰山、大真名子、小真名子、そして白根山や根名草山などの日光の山、遠く富士の山から、その手前には南アルプ

スの山、八ヶ岳、そして北の方には尾瀬や会津の山、上越の山など、絶景を楽しむ展望がある。

○そこから、気持ちの良い尾根上の道を進み、剣が峰の難所を越えると、本日の目的の山、太郎山頂に着く。山頂で休憩後記念写真を撮り、山頂での景色を再度楽しむ。その後下山にかかり、往路を戻り、難所の山王帽子の登り返しに苦しみながらも山上の風に励まされ、最後まで皆元気に歩き通すことができた。

○山王峠には 14:25 には戻り、そこから光徳駐車場に戻り、ゴミの処分の確認と親子登山教室のコースを確認して、散会となる。清掃登山とはいいながら、ゴミはさほどなかったが、梅雨時期の花々、鳥の鳴き声を楽しみ、そして、日光の山の豊かさや奥深さなどを感じつつ、毎度のこととなりますが趣なる山行となった。参加いただいた会員およびゲストの皆さん、大変お疲れ様でした。



ゴミ拾う様子です



太郎山山頂の集合写真

親子登山教室(第 12 回)

日 時：2024 年 7 月 20 日(土)～21 日(日)

場 所：日光市戦場ヶ原、太郎山(2367.7m)

参加者：親子 8 組 17 名、講師 2 名、会員スタッフ 9 名

行動概要：

○07/20(土)晴のち曇：光徳 P10:00…光徳小屋 10:25
開講式 10:30、11:30 発＝湯元ビジターセンター 11:50、
12:00 発…湯滝瀑台 12:50…泉門池 13:50…光徳小屋
14:40、タベのつどい 15:15、夕食 17:00、朝食準備
18:00、星座観察 19:30、スタッフミーティング 20:10、消灯
21:00

○07/21(日)晴：起床 5:00、朝食 5:50、光徳小屋 6:30＝
山王帽子山登山口 7:00～15…山王帽子山・休憩 8:15
…ハガタテの科尔・休憩 9:00…小太郎山・休憩 10:20
…太郎山頂・昼食 11:00～30 小太郎山・休憩 12:30…
ハガタテの科尔・休憩 13:30…山王帽子山・休憩
14:20…山王帽子山登山口 15:05＝光徳 P15:20、閉講
式 15:20、解散 15:30

【第 1 日：7 月 20 日(土)】

○平成 24 年に開始された親子登山教室は、今年度
第 12 回を迎えた。今回は親子 8 組 17 名と、講
師 2 名、日本山岳会栃木支部スタッフ 9 名で実
施した。

○9:30 から光徳駐車場にて受付を開始し、全員揃
ったところで 10:00 に光徳小屋まで荷物を持っ
て移動する。10:30 学習院光徳小屋の庭で、開講
式を行う。支部長の挨拶、日程説明、部屋割り、
スタッフ紹介、参加者自己紹介、管理人さんよ
り山小屋使用上の諸注意をしていただく。荷物
の整理・昼食・午後のハイキングの準備をし、
11:30 湯元駐車場へスタッフの車で移動する。

○12:00 に日光湯元ビジターセンターからハイキ
ングに出発。湯ノ湖の湖畔を反時計周りで歩く。
富永講師よりヒカリゴケの説明を受け、ありそ
うな木の根元をのぞき込むと、次々と見つけれ
ることができた。シカの足跡を確認したり、キノ
コを観察したりしながら、湯滝の落ちる地点へ
到着。湯滝の脇を下りて 12:50 観瀑台へ到着。
途中でアオダイショウの抜け殻が 2 つもありビ
ックリした。湯川沿いのハイキングコースはミ
ズナラやウラジロモミ、カラマツなどの林が続
き、木道歩きの快適なコースである。小学生の
団体とのすれ違いが多く、お互いに「こんにち
は」と挨拶し合った。13:50 泉門池到着、この
頃には、皆すっかり仲良しになっていた。小田
代橋から東に歩みを進め、北戦場ヶ原に入っ
ていく。雷雲が沸き、雨が降ってくるのが心配さ
れたが、なんとか合羽は着ずに済んだ。明日登
る山王帽子山、太郎山がはっきり見え、その登
山道の行程を思 うと、明日登れるかなあとちょ
っと心配になった。湿原にはツルコケモモやノ
アザミがたくさん咲いている。湿原の乾燥化が



戦場ヶ原にて…背景は明日登る太郎山

進み、シラカバの木等の灌木が育っていく様
子を確認しながら 14:30 光徳入口に到着。スタッ
フは湯元に停めてある車を回収した後、途中参
加者をピックアップし、14:40 光徳小屋に戻る。
○タベのつどいで、参加者代表の 6 年生の H さ
んに、明日の登山の抱負を述べていただき、夕
食の準備に取りかかる。小学生 9 名とスタッフ 3
名で、定番のチキン&ビーフカレー(甘口、辛口)
シーチキンサラダ、コーンスープを作る。皆や
る気満々で、米をとぐ人、玉ねぎのスライスに
挑戦する人、肉を切る、カレーの玉ねぎを炒め
るなどから始めた。さすがに高学年はなんでも
できるようになり、何をすればいいか聞いてく
れた。サラダに取り掛かかり、低学年の子にで
きる作業を振り分け、スタッフはなるべく手出
しをしないようにして、まな板を洗ったり、切
り方を教えたり、猫の手を見守り裏方に徹した。
子ども同士の切磋琢磨する様子が微笑ましい。
○その間保護者とスタッフはミーティングをしな
がら情報交換をし、交流を深めた。藤大路講師
よりシルクロードの山旅を映像とともにレク
チャーしていただく。17:00 より夕食、その後、後
片付けは保護者が行い、18:00 より再び子ども達
で、明日の朝食の準備に取りかかる。梅干しと
塩昆布のおにぎり、豚汁を作る。おにぎりは最
初にラップを敷き、ごま塩を置き、茶碗一杯の
ご飯を載せる。真ん中に具材を入れたら、にぎ
にぎする。子どもたちは競って、私に頂戴と言
って作っていた。あっという間に終了。



子どもたちとスタッフとで夕食準備中

○19:30 から恒例の星空観察会。今年も残念ながら厚い雲に覆われて…と思っていたが、雲が千切れ出した。これまで12回実施して2回目の星空だ。富永講師は幼少の頃より天文ファンで、先生の話聞きながら一等星の夏の的大三角形、春の大三角形の一つを見つける。男体山から満月の月が上がってきてしまい、天の川は見えないが、富永講師もビックリのさそり座が確認できた。名残惜しいが20:00過ぎ、星観察会終了。小屋に戻っても寒いので、ストーブに火をつけた。21:00 全員就寝。

【第2日：7月21日(日)】

○5:00 起床。昨日のうちに準備した朝食を食べる。朝食の後は、慌ただしく後片付けや荷物の整理、清掃を行い、10分前集合の6:20には、登山準備と出発準備OK。光徳駐車場に止めてある車に一旦戻り、そこからスタッフの車で山王帽子山登山口へ移動した。準備体操後7:15 出発。

○親子登山教室で太郎山に登るのは3回目である。第1回と第4回は新薙コースから登ったが、今回は山王峠からのピストンとした。新薙コースはガレ場が多く、更に急斜面が続く緊張する所が何回もあり、子どもも大人も実力や体力に差がある親子登山教室ではハードルが高い。今回のコースは小太郎山から太郎山へヤセ尾根があるが、う回路を利用すれば危険度は下がる。ただ、山王帽子山頂からの下りを復路は登り返さなければならないのが難点だが、どうだろうか？

○朝露に濡れた笹原に分け入り、まもなく樹林帯の急登が始まる。汗が噴き出すが、時折吹く風はクーラーのように涼しく気持ちが良い。20℃くらいの気温であるものの、体感温度は16℃くらいだろう、良いペースで登っていく。山王帽子山頂まで80分と見ていたが60分で着いてしまった。山王帽子山頂は樹林帯の中で、木々の隙間から男体山やこれから登る太郎山が確認できた。

○ハガタテのコルまで160mほど下り、休憩。そして400mほどの登りになる。途中1回休憩を入れ、小太郎山に10:20 到着。ここで体調チェックをし、太郎山まで危険なヤセ尾根を通して山頂まで行けるか一人ひとりの意思を確認する。お父さんの登山靴の靴底が剥れたペアと、昨日から体調が悪いペア2組は小太郎山で昼食休憩に入った。3点支持をしっかりと守りながら岩場を通過し、岩場に咲く高山植物に元気をもらいながら最後60mほどの登りで11:00に太郎山山頂到着。コケモモ、ミヤマダイコンソウ、コゴメグサ、シラネ ニンジン、ハクサンフウロなどが咲



寝転がって星空観察



学習院光徳小屋にて



もうすぐ太郎山山頂

いていて、富永先生のクイズの答えの解説もしてもらった。到着した時はガスって何も見えなかったが、時折ガスが切れて眺望が現れた。昼食を食べ終わる頃には天気も回復し、小太郎山はじめ男体山、大真名子山などほぼ 360 度の見晴らし。小太郎山に私たちの姿と声が届く。11:30 来た道を引き返す。最後の難関 山王帽子山を登り返すわけだが、太郎山から見る山王帽子山が低く小さく見えた、確かに地図を確認すると 300m も低い。

○小太郎山で全員で集合写真を撮り、下山開始。こんな急なところを登って来たんだとビックリしながら、滑って転ばないように注意し合いながらおりた。途中で立ち休み(水分補給の短い休憩)をすると、山王帽子山とほぼ同じ高さまで下ったのが分かった。13:30 ハガタテのコルに到着。これからの登り返しに備え 10 分休憩。ちょうど手袋を脱いでしまってから、すべって擦りむいてしまった手の傷の手当をする。一瞬の油断でケガすることを実感した。最後にここを登ったら後は下るだけ、ゆっくりといろいろおしゃべりしながら登った。14:20 山王帽子山到着。最後に頂上の雲が取れた男体山を見納めて、下山する。樹林帯から笹原になると、もうすぐ到着である。15:05 最後尾が登山口に着いた。整理体操をし、光徳駐車場へ移動。



太郎山山頂



小太郎山まで届け!

小太郎山山頂に全員集合



○15:20 光徳駐車場で閉講式を行い、修了証を授与した。今年も参加者の皆さん、スタッフの皆さんの温かい気持ちと協力のもと、所期の目的を遂げることができた、ありがとうございました。昨年も感じたのだが、学習院光徳小屋に宿泊を伴った活動をする、不思議なことに皆家族のような一体感が生まれ、やさしい気持ちで接することができるようだ。親子登山教室参加者の皆さんから毎回エネルギーを充滿していただいて帰ることができる。自分のお子さんだけではなく、全体を気遣ってくださっているのを感じ、何よりも一回り大きくなった子どもたちの姿が見えてくる。スタッフの皆さんも、楽しかったですよね。来年度もよろしくお願いします。



支部長から閉講式…修了証書授与



学習院光徳小屋前…全員で記念撮影

夏山山行

期日：2024年8月24日(土)～26日(月)

場所：尾瀬沼、尾瀬ヶ原、燧岳、三条の滝、至仏山

参加者：渡邊、高野、鬼頭、浅川 ゲスト：神長善次、
内山昭夫、黒岩春彦、齋藤一興 総勢8名

行動概要：

○8/24(土)：日光駅 7:30＝大清水 P9:40～10:00＝低
公害シャトルバス＝一ノ瀬 10:00～30…三平峠
11:50～12:15…尾瀬沼山荘 12:30～45…長蔵小屋
13:10 宿泊

○8/25(日)：朝食 6:00…(各自好みのルート)…尾瀬ロッ
ジ 15:00

○8/26(月)：朝食 6:00…至仏山 9:55～10:15…鳩待
峠 13:00＝戸倉、解散＝日光駅 14:00



【第1日：8月24日(土) 曇のち雷雨】

- 日光駅前に予定の時間で全員集合し、3台の車で金精峠を越えて戸倉の尾瀬ロッジ専用駐車場に1台をデポし、2台で大清水の駐車場に到着した。尾瀬ロッジの宿泊者は専用駐車場を無料で利用できるのも便利。大清水の駐車場に車をデポして、シャトルバスで一ノ瀬に行った。わずか10分の乗車(4Km)だが料金は一人1,000円。若者たちの多くはバスを利用せず歩いていた。
- 入山準備をしていると見慣れた女性が山から下りてくる。なんと、長蔵小屋のおかみさんの紀子さん、今朝何度か彼女に電話したが、「電波の届かない範囲」とのスマホの返答、理由が判明した。久しぶりの再会、みんな記念撮影をして別れた。

○蒸し暑い中をのんびりペースで尾瀬沼を目指す。夏休み中なのだが登山者は非常に少ない。台風接近の天気予報なので控えているのだろう。三平峠を越えて尾瀬沼のほとりへ。尾瀬沼山荘前で対岸の燧岳を眺めながらまったり。雲行きが怪しくなってきたので長居せず長蔵小屋に向かった。小屋の手前でポッポッとやってきたが、滑り込みセーフで小屋に到着、到着と同時にすさまじい豪雨でぬれずに済んだ。ラッキー。長蔵小屋では、差入れのお酒などいただき歓待を受けた。まだ午後1時を過ぎたばかり、早速、情緒あふれる部屋で差入れのお酒で登山談義と言いたい、世間話に盛り上がった。

【第2日：8月25日(日) 曇のち雷雨】

○朝食を6:00に取り、それぞれの好みのルートで今日の宿泊地である山の鼻の尾瀬ロッジに向かった。鬼頭班は燧岳、神長・内山班は尾瀬沼西岸から尾瀬沼、高野・浅川班は尾瀬ヶ原散策、黒岩・斎藤・渡邊班は平滑ノ滝、三条ノ滝経由と各自の責任で行動した。このところ天気は不順で、正午ごろから尾瀬ヶ原一帯は 猛烈な雷雨となり、尾瀬ヶ原を歩いている登山者もほとんど見られない。夏休み中の尾瀬ヶ原とは思えない静けさ、ただし雷雨の音はすさまじい。各班とも何事もなく、15:00 には全員が尾瀬ロッジに入所した。4 月末に予約した時には大変混雑している様子だったが、なんと今日の宿泊客は私たち8名と外国人の親子4名のみの、静かな夜だった。

【第3日：8月26日(月)】

○6:00 に朝食をとり、至仏山へと向かった。神長・内山班は登山せずにまっすぐに鳩待峠に向かうことにした。山の鼻から至仏山へはほぼ直登、玄武岩の滑りやすい濡れた登山道を進む。時折振り返って尾瀬ヶ原や燧岳を見渡すが、燧岳の頂上は雲に覆われ

たままであった。登り専用の登山道だが、連日の雨天で今日も登山者は少ない。山頂には9:55 に到着、20 分ほど休憩ののち、雲行きが怪しいので下山を急ぐ。案の定、小至仏山を越える 11:00 ころにはにわか雨に遭遇、30 分ほどで止んだのでほとんどぬれずに済んだ。オオヤマ沢田代を過ぎてからはだらだらの下り坂、予定よりやや遅れて13:00 に鳩待峠に到着した。神長・内山班は長時間鳩待峠で登山班を待っていただき感謝でした。

○戸倉へはワゴンタクシーを1台チャーターできて、スムーズに戸倉の駐車場に到着した。大清水の車を回収し、戸倉の駐車場にて解散となった。日光駅には予定通り14:00 に到着した。

○今回の夏山山行は、夏の尾瀬のシーズン中なので山小屋の予約など大変な混雑を予想していたが、台風の接近でほとんどのお客がキャンセルしたようである。その分、私たちは静かな尾瀬を楽しむことができた。

○また、尾瀬という安全が管理されている山域なので、各自の希望と責任によって行動することができたことは、雨にあったとは言え充実したものになったといえる。



第45回那須クリーンキャンペーン

日時：2024年9月1日(日)7:30～
場所：那須、峠の茶屋園地、那須山系、周辺
主催：栃木県山岳・スポーツクライミング連盟
共催：日本山岳会栃木支部、栃木県勤労者山岳連盟、
栃木県山の日協議会、日光・那須山岳ガイド協会
清掃区域：各山岳会の責任で設定

○本支部会員の後藤尚委員が参加申込み先で尽力しており、本支部としては古道調査プロジェクトの一環として、白湯山信仰の「御宝前」の踏査を予定していたが、残念ながら台風接近のため中止となった。

秋山山行

期日：2024年10月27日(日)～28日(月)

場所：南会津 唐倉山(1176m)、浅草岳(1585m)

参加者：増淵、渡邊、高野、鬼頭、仲島、林(28日のみ)

ゲスト：神長善次、齋藤一興、林明子)

行動概要：

○10/27(日)：上三依塩原温泉口駅 7:30＝(計画輸送)

＝林道 9:00…唐倉山登山開き会場 9:10～50 唐倉

山山頂 10:25～50 登山口 11:45＝ホテル南郷 14:30

○10/28(月)：起床 5:30、浅草岳登山中止＝上三依塩原温泉口駅 16:00、解散



【第1日：10月27日(日)】

○上三依塩原温泉口駅に予定の時間に全員集合し、3台の車で出発。田島を経由し、山開きの歓迎横断幕を通して林道に入る。林道の路肩には多くの車が駐車してある。我々も路肩に駐車。10分歩くと唐倉山登山開き会場に着く。登山口には数張りのテントがある。受付用テントで受付を済ませる。我々の受付番号は148～152である。番号記入済みの封筒を受け取る。下山時に地元の特産物が当たるようだ。

○9:50 発、林道を少し歩くと階段状の窪みがあり、ここから急斜面が続く、はだかの岩が壁のように見えた。屏風岩、黒松、赤松、飛びつき岩等の岩峰の痩せ尾根を注意しながら登る。危険な場所には地元の指導者がいて安全を確保してくれる。唐倉山山頂には10:25着。山頂は数人の登山者と指導員がいて、茸について談笑していたので話に入った。山頂発 10:50。連続する急斜面を下り、登山口着 11:45。掲示板の番号を確認したが、該当番号はなく全員はずれ。

○ホテルのチェックインまで時間があるので、きらら道の駅で休憩。ホテル南郷着 14:30。ホテルに入ってから雨が降り始めた。明日の天気心配である。入浴後、地酒を飲みながらの夕食となる。部屋に戻ってから登山談義ではなく世間話で盛り上がった。

【第2日：10月28日(月)】

○5:30 起床。出発準備をして外に出たが本降りの雨。少し様子をみたが、止む気配がないので浅草岳登山を中止する。本日から参加の林がホテルに着く。相談の結果、増淵・仲島・林班は南会津町観光に出る。駒止湿原散策、古町の大銀杏、屏風岩、前沢曲り家聚落等を見学し、16:00 無事に帰る。渡邊・高野・鬼頭班は浅草岳登山口まで行き、天気回復見込みがないと判断し、只見町の観光をする。なお渡邊・高野・鬼頭班は、翌日会津朝日岳に登り、無事に帰った。



関東 4 支部合同懇談会

期日: 2024 年 11 月 23 日(土) ~ 24 日(日)

場所: 千葉県鴨川市 内浦山県民の森

講演: 「コンビニ登山」の危うさを露呈したトムウツ山大量遭難

講師: 節田重節(元トムウツ山遭難事故調査特別委員会座長・千葉支部会員)

宿泊: 内浦山県民の森「森の宿せせらぎ」

参加者: 4 支部から総勢 35 名(本支部 1 名仲島)

山行: A コース(登山) 烏場山(花塚街道)CT5hour

B コース(軽ハイキング) 鵜原理想郷ハイキングコース CT2.5hour

○千葉支部 26 名、群馬支部 6 名、茨城支部 2 名、栃木支部 1 名、計 35 名が参加し、内浦山県民の森で 4 支部合同懇談会が行われた。23 日は 13:50 より開会式が始まり、4 支部活動の報告に続いて記念講演が行われた。2009(平成 21 年)年 7 月 16 日に 10 人が亡くなった遭難事故の詳細を聴講した。夏山遭難史上かつてない事故はどのように発生してしまったのか? 現地調査、生存者へのヒアリング、低体温症の医学的検証など解説していただき、これからの山行に活かしたいと肝に銘じた。お風呂タイムの後、18:00 より夕

絶品、
金目鯛の煮付



食&懇親会、20:00 より 2 次会、22:30 より 3 次会と、大量のアルコールが干されるまで続いた。
○24 日は 7:30 よりバイキング形式の朝食をいただき、8:45 に全員で記念撮影を行い、A コースと B コースに分かれ登山口へ出発。鴨川シーワールドの入場待ちの列を眺め、国道 128 号線から急に細くなる道を恐る恐る進み登山口へ。10:00 より 18 名で烏場山を目指した。海を眺めながら見晴台でさんが焼弁当を食べ、第三展望台で雲を纏った富士山を眺め、頂上着 13:00。登った道は花嫁街道コース、花嫁たちは貧しい山間部から豊かな海岸部へ嫁ぐことを祝われたそうだ。周回コースの下山路は花婿コース、黒滝の滝つぼへは立ち入り禁止で上から眺め、ゴールのはなその広場に 14:50 到着。来年度の茨城での再会を約束して散会となった。約 5 時間のドライブで不安が大きかったですが、千葉支部の歓待、顔馴染みとなった 3 支部の皆さんとの邂逅に、また海と海鮮とお酒と山談義でとても楽しかった。一番の印象は各支部の活動を伺ったこと、さっそく各支部のホームページを訪問し、情報収集している。



冬山山行・新年会

期日:2025年1月19日(日)~20日(月)

場所:那須塩原市 鶏頂山(1765m)・日留賀岳(1849m)

宿泊・新年会は塩原温泉「明賀屋本館」

登山参加者:渡邊、高野、鬼頭、仲畠、林、荒井

塩原温泉散策参加者:菱田、(ゲスト:鈴木、上田)

新年会参加者:以上の9名に加えて後藤、増淵、君島、

(ゲスト:新本政子、新本孫宏)総勢14名

(2班)仙石、猿山、長

行動概要:

○1/19(日):藤原登山口 9:40...鶏頂山 12:20~13:00

...登山口 14:20=明賀屋本館、宿泊

○1/20(月):

【1班】明賀屋本館=日留賀岳登山口 8:50...1514m

ピーク手前鳥居 3:00...登山口 15:30 会

【2班】明賀屋本館=大沼公園 P9:15...大沼散策...

ヨシ沼散策...大沼公園 P11:45

【第1日:1月19日(日) 晴】

○支部冬山1日目は日塩もみじライン沿いにある藤原登山口に2台の車に分かれて集合する。予定していた駐車場が除雪されておらず、仕方なくスコップで雪かきをして駐車スペースを確保してから登山準備を始める。この時期は西口登山口の駐車スペースしか利用できないらしく、6~7台の駐車場はすでに満車だった。鳥居をくぐり登山道に入るが、こちらの登山口からはあまりトレースが無く、西口登山口からの道と合流するまでは軽いラッセルとなる。合流後はしっかりと踏み固められた歩きやすい雪道となった。エーデルワイススキー場が見えるなどかな道を進み、途中の開けた場所からは日光連山がきれいに眺められる。標高1517mの分岐を過ぎると急登が始まり、稜線へ出ると釈迦が岳との分岐となる。更に急となる道を登りきると山頂に着く。山頂には他に2人の登山者しかおらず、多くの方は釈迦が岳へ向かったらしい。天候も良く、樹林に視界を少し邪魔はされるが、日光や那須の山から飯豊連峰など遠くの山々まで見渡すことが出来た。山頂で記念撮影と休憩の後下山、その後宿泊先に移動する。

○今回お世話になる塩原温泉明賀屋本館は栃木支部会員である君島さんが経営する旅館で、溪谷沿いに建てられた最深部には目の前に川が流れる露天風呂があり、夕食前に楽しむことができた。この風呂に辿り着くには88段の階段を下りていかねばならず、宴会後の酔った状態では少し危険かと思った。18:00からは新年会である。合流された方々とともに贅沢な料理やお酒を楽しみ、各自の近況報告で盛り上がった。



歩き始めの樹林帯



山頂の神社前にて



明賀屋本館での新年会

【第2日：1月20日(月) 晴時々曇】

《1班》

○7:30 から旅館での朝食をいただき、日留賀岳登山班と塩原散策班とは別行動となる。

○登山班は朝食を済ませるとすぐに出発し、登山口である白戸集落小山さん宅へ向かう。ここは個人宅の敷地をお借りするかたちで駐車させていただき、庭を歩いて登山道へ入っていく。車を停めるとちょうどご主人がいらしたのでご挨拶をすることができた。玄関脇の帳面に名前を記入し、手描きの登山地図を頂いて歩き始める。

○しばらくは雪も無く落ち葉の積もったやや急な登山道を登る。個人的には15年ほど前の夏に一度この山に登ったことはあったが、山頂までは結構遠く、暑さもありつらかった覚えがある。冬のこの時期は落葉によって視界が開け、歩いていて気持ちがいい。標高903mの鉄塔付近まで来ると雪が見え始め、冬山らしくなってきた。そこから30分ほど林道歩きとなり、林道終点からは日留賀岳の山頂が見える。比津羅山を巻きながら進んで行くと山頂への尾根に取りつく。積雪もひざ下くらいとなり、ラッセルを交代しながら急登を登って行く。

○1514mの小ピーク手前にある鳥居まで辿り着いた時点で時間は13:00、天気も良く山頂も見えてはいるが、下山を考えると頂上を諦めて引き返すことになった。出発時間も遅く、雪の状況を考えればここまで来られたことに満足したい。2日間にわたり冬山山行を実施し、近くても中々来ることのない山に好天の中登ることができた。参加していただいた皆さん、そして宿泊でお世話になりました君島さんに感謝申し上げます。

《2班》

○登山班から遅れて宿を立ち、大沼公園駐車場へ向かう。紅葉ラインは雪がなかったが、大沼方面に折れると圧雪路だった。まず足慣らしに平坦な大沼を散策した。朝のうち曇っていたが、だんだん晴れてきて、雪原の向こうに見える新湯富士がきれいだった。また、雪にいろいろな動物の足跡があって、どんな動物か想像するのも面白かった。新湯富士に登ってみたかったが、標高差50mほどのヨシ沼まで行った。季節外れの暖かい日で、あまり踏み固められていない雪の上を久々に歩くことができて、とても満足できた。帰り道、塩原名物「スープ入り焼きそば」を食べた。



小山さん宅の駐車場



鉄塔付近からは積雪が



今回の到達点である
1514m 付近の鳥居



大沼から新湯富士を望む



ヨシ沼

ヒマラヤの集い 2025(本支部とコンセーレとの共催事業)

日時: 2025 年 2 月 22 日 (土) 13:30~16:00

場所: 宇都宮市『コンセーレ』小ホール

演題: 「学生だけの未踏峰への挑戦」…ゼロからのタクティクス、学生だけの遠征隊

講師: 同志社大学隊・加藤惇史氏(作新学院高出身) 日本山岳会学生部・芦沢太陽氏(中央大学山岳部)

○加藤惇史さん(25 歳)は作新学院高・山岳部の出身で 2023 年ポスト・モンスーン期(秋)に 極西ネパール山域の未踏峰であるラマ峰(6527m)登頂を目指し、同志社大学山岳部・山岳会の隊員として挑戦した。結果として最高到達地点は 6300m となった。登頂は叶わなかったものの、アプローチさえも未知であったこの未踏峰の困難なルートに挫けずに挑戦しきれた。「粘り強くトライする」という加藤さんの言葉通り、2 次アタックで 4 日間食料をぎりぎりまでつないだが、吹雪と極度の視界不良が続き登頂を断念した。「できることはやったうえでの撤退で、悔いはない」と感想を述べた。

○芦沢太陽さん(21 歳)はヒマラヤの未踏峰ブンギ峰(6524m)に 2024 年 10 月 12 日見事初登頂を果たした。日本山岳会学生部・ブンギ遠征隊による初登頂成功のニュースはマスコミに大きく取り上げられた。ネパール中央部にあたるアンナプルナ山域に位置するこの未踏峰に、学生 5 人だけのパーティーが全員登頂を果たすという快挙だった。芦沢さんは 最年少隊員で、後輩たちに経験を継承する役割も担っている。5 人は青学、東大、立教(2 名)、中央と別々の大学だが、「チームワークが大事」と考え可能な限り対面でのミーティングと 多くのトレーニング山行を重ね、助け合いながら登頂した。

○当日会場には約 30 名の観客が参加し、熱心に二人の報告を聴き入っていた。講演会終了後、講師を囲んで支部会会員たちと懇親会を開き、親睦を深めた。



加藤惇史氏



芦沢太陽氏



会場の光景

第16回「山」の講演会

(本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2025年3月22日(土)14:00~16:00

場所：宇都宮市『コンセーレ』大ホール

参加者：90 余名

講師：柏村祐司氏(栃木県立博物館名誉学芸員)

演題：「ふる里栃木の山の信仰と暮らしを尋ねて」

- 今年度の「山」の講演会は、元会員でもある柏村祐司氏にお願いし、日光、那須の山について信仰と暮らしの面から講演が行われた。
- 当初、会場は青年会館小ホールで予約したが、大ホールに変更して行われ、90 余名の参加者があり、ここ数年の参加者数では規模の大きい講演会となった。ただ、参加者は柏村講師のお声がけで参加された県博物館友の会や県内の歴史、民俗に興味のある方々が多く、当会会員、後援の県山岳連盟関係者の参加者が少なかった。開催の広報は、新聞(下野他3紙)掲載依頼、会場にも開催のチラシ(50部)を置いていたが、残部も多く、広報面での周知が課題と思われた。
- 講演内容は、大きく2つに分けられ、①栃木の山の信仰(修験者による信仰～日光修験、在俗信者による霊山登拝)、②山の暮らしと山の信仰(足尾山地での林業と信仰、山の神信仰)であった。①では勝道上人の男体山開山から、熊野三山信仰、日光修験の三峯五禅頂の峰修行と変革・衰退。在俗信者の男体山登拝、男体山、那須での出羽三山信仰(湯殿山、白湯山信仰・高湯山信仰)について、講話が行われ、男体山・女峰山・太郎山の位置づけ、茶臼岳・朝日岳の位置づけ、南月山の名前の由来等の説明があった。②では足尾での林業と信仰、鹿沼市草久の山の神の話、日光市栗山地区での山仕事と信仰について、地域で山と信仰について生活と結びついた内容の説明があった。
- 最後に県内の山の現状についてトイレ問題、SDGs等での課題等、我々、山の関係団体としての課題でもある事案について、会場参加者への問いかけが行われ、散会となった。
- その後の懇親会では、講演内容の補足や歓談が行われ、旧交が温められた。



柏村祐司講師



講演の様子



聴衆からの質問

日本山岳会栃木支部・栃木県青年会館 社会貢献事業

第16回「山」の講演会

●日時：令和7(2025)年3月22日(土) 14:00~15:50 (受付 13:30~)
●会場：コンセーレ(栃木県青年会館) 1F・小ホール
コンセーレ(栃木県青年会館) 半蔵宮市野生1-1-6 TEL028-624-1417
《交通のご案内》 JR 半蔵宮駅より路線バス「作新学院前」行、東中丸バス停下車
●演題：『ふる里栃木の山の信仰と暮らしを尋ねて』
“栃木の山を愛し、栃木の山岳地帯をフィールドとした民俗学者であり、登山愛好家ならではの講話です。”
●講師：柏村 祐司(かしわむら ゆうじ)氏
○昭和19(1944)年宇都宮市生まれ。宇都宮大学卒、県立日光高校に奉職・山岳部顧問、栃木県立博物館学芸員、平成17年学芸部長を退職。令和元年栃木県文化功労者受賞。
○現在、とちぎ未来大使、栃木県立博物館名誉学芸員、滝の原山岳会員、栃木県歴史文化研究会・下野民俗研究会顧問。
○栃木県民俗学の第一人者であり、講演の他、著書も多数。主な著書：『栗山の昔話』、『野州の森と民俗』、『栃木の祭り』、『下野の風物めぐる民俗』等。
●主催：公益社団法人 日本山岳会栃木支部
一般財団法人 栃木県青年会館
●後援：一般社団法人 栃木県山岳・スポーツライミング連盟
●申込み：事前の申込みは不要です。当日、コンセーレにおいて下さい。
参加費は無料です。
問い合わせ先：栃木県青年会館/高秀まで TEL 028-624-1417

一般の方向けの講演会案内

19